

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

08 物流施設の設置、機能強化を行っている例 / その他の事例

1.

2. サプライ関連事業者

3.

4.

災害医療チームにも参画し、医薬品の確実な配送を目指す

宮城県医薬品卸組合

事例番号 045

■業種：卸売業, 小売業

■取組の実施地域：宮城県

- 東日本大震災の際には、医療品卸として迅速な対応を取り、国・自治体等から評価を頂いた反面、一部で医薬品が足りないと誤報された。このため宮城県医薬品卸組合では、医薬品を被災者の手元に届けたことを具体的に説明し、さらに災害時備蓄医薬品、緊急車両申請など有事対応を行政と見直し、災害対策マニュアルの改訂を行った。
- 平成 24 年 3 月には、宮城県版・災害医療チーム「JMAT 宮城」(Japan Medical Association Team)が発足し、宮城県医師会・宮城県歯科医師会・宮城県薬剤師会・宮城県看護協会と並び、宮城県医薬品卸組合もメンバーとして参画している。
- 同組合が加わることで、県内 27 か所の物流拠点を通じ、災害時の医薬品供給を担う予定であり、輸液や緊急ショック用剤、糖尿病薬治療薬など 82 品目については、すでに 0.6 か月間分の備蓄を進めている。なお「JMAT 宮城」が活動している際には、すべての卸が 24 時間対応で医薬品の配送に対応できる仕組みも整え、迅速な対応を行う予定である。
- 医薬品卸は、病院、診療所、薬局との取引があり、それぞれの施設で必要となる医薬品を把握している強みがあり、その特徴が発災時にも活かされることが期待されている。